



Fig. 1 Constitution and mode of formation of edultin, angelicone and nodakenin.

Franch.) Yabe およびウドモドキ *A. glabra* Makino と一層近縁のものであることが分る。このことは形態上からも正しいと思う。⁵⁾

なおノダケが Coumarin 化合物を Glucoside として含むことはこれまた珍らしいことで、その Aglucone Nodakenetin の構造もかなり特徴あるものである。このノダケはまづオニダケに類縁を求むべきで、オニダケその他の成分の検索比較が要望される。ノダケおよびその近似種はこの属では若干特別なものであるかも知れぬ。

文 献

- 1) 藤田：植研 **38** : 244, 309, 359. 2) Mitsuhashi, Itoh : *Chem. & Pharm. Bull.*, **9** : 170 (1961); **10** : 511, 514 (1962). 3) 藤田, 古屋：薬誌, **76** : 538 (1956); 古屋, 陳：薬誌, **81** : 800 (1961). 4) 有馬：日化誌, **48** : 88, 457 (1927); **49** : 110, 415, 530 (1928); **50** : 205 (1929; Späth, Kainrath : *Ber.*, **69** : 2062 (1936); Späth, Tyray : *Ber.*, **72** : 2089 (1939). 5) Hiroe, Constance; *Umbelli. Jap.*, 93 (1958); 北村, 村田：原色日本植物図鑑 (中) 29 (1961).

Summary

The author discussed further the classification and phylogeny of some *Angelica* species from the view point of chemical constituents. *Angelica ursina* (Rupr.) Maxim. have greater affinity with *A. schishiudo* Koidz. and *A. glabra* Makino than with *A. edulis* Miyabe. *A. decursiva* (Miq.) Franch. et Savat. is rather peculiar by the occurrence of nodakenin.

□ Kitamura, F. & Y. Ishizu : **Garden plants in Japan** pp. 266. Kokusai Bunka Shinkokai, Tokyo (1963) 日本式の庭園にみられる主な樹木に若干の草木を加えた 209 種を写真入りで英文の短かい記事で説明をしたもの。1961 年に日本を訪門した The Garden Club of America の一行が旅行記念に提供した基金で出版された。東大農学部 の北村文雄氏と小石川植物園の石津百合雄氏との共同執筆に成る。オリムピックを控えて手頃な案内書である。慾をいえば草本をもう少し拡げてサギソウ, サクラソウ, イハヒバ位迄拾ってほしかったし, 二三植物の写真の間違は惜しい。(前川文夫)